

公平地区

第2層協議体



団体名

公平地区たすけあい協議会

スローガン

困ったときは、おたがいさま！

これまでの歩み

令和2年7月 公平地区たすけあい協議会設立
令和3年10月 高齢者ニーズ調査の実施
ニーズ調査から見た地域課題「情報の発信・取得」と「社会参加」について協議
令和6年5月 公平地区振興協議会へ加入

協議体の特徴

ニーズ調査の結果を丁寧に分析し、情報の発信・取得、そこから社会参加、さらに生活支援について、できるところからひとつずつ協議を進めている。

協議体の構成員は、公平地区社会福祉協議会を中心とし、地区振興協議会、区長会、長寿会、民生児童委員、ボランティア団体等の公平地区各種団体に加え、地区に所在する社会福祉法人が参画し、年に8回程度理事会を開催、年に3回程度協議会を開催。

また、地区内に所在する大学にも協力いただいて新たな事業を実施するなど、多様なネットワークが構築されている。



スマホ教室～in 城西国際大学～の様子

活動実績①

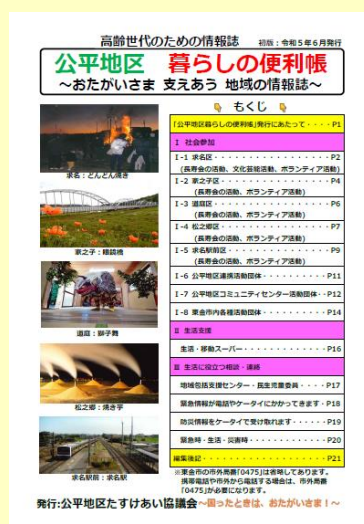
ニーズ調査の結果より、情報の発信・取得が地域課題と捉える。
令和3年6月に会報誌「公平たすけあいだより」第1号を発行。
令和6年10月で第10号を迎えた。
また、会報誌だけでなく、地域の高齢者等が利用できるサービスをまとめた情報誌『高齢世代のための情報誌 公平地区暮らしの便利帳～お互いさま 支えあう 地域の情報誌～』を令和5年6月発行。

活動実績②

○各種団体体験会 令和5年10月開始
高齢者の社会参加を促進するため、地区内の長寿会、ボランティア団体等に働きかけ、各団体への体験会を設定してもらい、会報誌にて参加を広く呼び掛けた。
好評につき、令和6年度も体験会を実施。また、団体によっては、通年で体験を受け入れるなど、交流の窓口を広げるきっかけとなった。
○スマホ教室～in 城西国際大学～
情報の発信・取得支援の一環として、地区内に所在する城西国際大学と連携し、令和5年10月高齢者向け「スマホ教室」を開催。高齢者の情報取得支援とともに、社会参加にも繋がる取組となった。令和6年度も開催予定。

活動実績③

○公平ゆうあいサポート
ニーズ調査の結果から、生活支援の充実が必要と考え、地区内高齢者の方のちょっとした困りごとを解決するため、有償ボランティア団体「公平ゆうあいサポート」を令和6年10月に立ち上げた。
会報誌「公平たすけあいだより」にて、サービスの周知、事務サポーターとライフサポーターの募集を行った。少しずつ地域の方からの認知度が上がっている。
今後は、事務サポーターの定期的な報告会等を実施予定。



公平地区第2層協議体にて発行した情報誌
「公平地区 暮らしの便利帳」